

# Newsletter

No. 38 September 30 2020

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

## 帰国報告

昨年度までラテンアメリカ共同研究拠点 (LACRC) に赴任していた小田柿智之です。7月10日に帰国し、2週間の隔離期間を過ごした後、7月27日から消化器内科の助教として本学に着任しました。

当初は3月末に帰国する予定だったのですが、サンティアゴでの新型コロナウイルスの感染拡大により3月中旬から義務的外出制限が発令されたことで、予定していた引っ越し荷物の搬出が延期になり、また世界的なパンデミックの影響により国際線が著しく減便した影響もあって、実際に帰国するまでに3か月以上もの間、チリで待機することとなりました。

義務的外出制限下でも医療関係者の出勤は許可されていたのですが、保健省からの指示により緊急対応が必要な内視鏡処置以外は全て中止となったことで、大腸がん早期診断プロジェクト (PRENEC) の活動も休止になりました。

生活を維持するのに必要なこと (買い物、公共料金の支払い、銀行や役所での手続きなど) に限っては、ネット上で警察署に申請することで、1回3時間、週2回までの外出が許可されていましたが、異国の地で未知のウイルスに感染してしまうことへの不安が大きかったこともあり、宅配サービスを利用するなど、なるべく家から出ないようにして過ごしていました。

子ども達の通っていた学校や幼稚園も休校処置がとられましたが、すぐにオンラインでの授業が始まりました。小学3年生、1年生、幼稚園児ということもあり、特に下の二人は授業を受けるにあたって親のサポートが必要で、殆ど付きっきりのような状態でした。お互いに慣れないことで大変ではありましたが、一緒に絵を描いたり、工作をしたり、体育や音楽の課題を練習したりなど普段ではできないことに取り組むことができました。子ども達にとっては友達や先生と一緒にやった方が楽しいに決まっているのですが、親としては貴重な経験をさせてもらったと思っています。外出できないことは、大人以上に子ども達にとって大きなストレスであったと思いますが、オンライン授業があったことで生活にリズムができましたし、先が見えない中で前向きに生活するための一助になっていたように思います。

チリでは、長期間の義務的外出制限などの効果もあってか新規感染者数が徐々に減少し、感染者の少ない地域から規制緩和が始まっています。PRENECは無症状者対象の検診プロジェクトであるため、優先度を考慮すると再開にはもう少し時間がかかるかもしれません。一日でも早くパンデミックが収束し、本学のチリでの活動が再開できる日が来ることを切に願っています。

小田柿 智之 消化器病態学分野



**LACRC** TMDU  
IN CHILE  
Latin American Collaborative Research Center  
Santiago de Chile



## Contents

巻頭言.....	1
新型コロナウイルスの状況.....	2
JDプロジェクト.....	3
PRENECの進捗状況.....	4

# 新型コロナウイルスの状況

## チリにおける新型コロナウイルスの状況

前号でお伝えしたように、チリでは3月中旬に災害事態宣言(Estado de Catástrofe)が発令され、夜間外出禁止や義務的自宅待機措置が続きました。早期の対策により新規感染者数の増加が緩やかになったため、LACRCオフィスがあるラス・コンデス区など感染者の少ない地域では4月中旬に外出制限が解除されました。しかしながら、規制緩和後に新規感染者数が急増したことから、解除から2週間程で再び夜間外出禁止、義務的自宅待機措置がとられました。

6月中旬には、長引く感染拡大により医療体制が逼迫したことに加えて、保健省が発表する新型コロナ関連死亡者数に誤りが発覚したことなどから、責任を取る形で保健大臣が交代する事態となりました。LACRCオフィスがあるクリニカ・ラス・コンデス(以下CLC)でも、新型コロナウイルス患者の急増に備えて対策を講じていたものの、予想を上回る勢いで患者が増え、対応に当たっていた医療・事務スタッフの感染も相次ぐなど多くの混乱が生じました。サンティアゴの一部の医療機関では重症患者に対応できる病床数が確保できなくなり、比較的余裕のある地方の病院へ患者を搬送するなどの対策が取られました。

経済への影響は深刻で、失業者の増加、貧困の深刻化に対し、チリ政府は低所得層への支援として食料品・生活必需品の救援物資を用意し、一定の基準を満たす中間所得層には給付金の支給、長期の低利貸し付け、ローン返済期限の延長、さらに、AFP(確定拠出型年金)の積立金の10%を引き出すことを可能とする措置などをとりました。市民レベルでも、有志で食料品・生活必需品の配布、失業者への炊き出し等が行われました。

また、チリのこのような状況に対し、日本政府は無償資金協力による医療機器支援を行うことを決定しました。同支援に関する署名式の様子は、当地のメディアで報道されました。(左下写真)

7月下旬以降ようやく感染拡大の勢いが収まり、現段階で累計感染者数は約46万人、1日当たりの新規感染者数はピーク時には約7,000人で推移していましたが、現在では約1,000人まで減少し、首都圏州の一部から順に規制緩和が徐々に進んでいます。多くの在留邦人が住む地区では、自宅待機措置が解除され、感染対策を講じた商業施設の再開が始まっています。

例年、9月の連休には、国を挙げて独立記念日(通称:El Dieciocho)を祝いますが、規制緩和されていない地区も未だに多くあり、家族や友人との時間を大切にすチリの人々にとって、今年は寂しい独立記念日となりました。

世界のいたるところで第2波、第3波が注視され厳しい状況が続いていますが、一日も早く安心して過ごせる日が戻ってくるのを祈念しております。



署名式典の様子(在チリ日本大使館提供)  
左より平石特命全権大使(当時)とアラマンド外務大臣



レストランでは、感染対策の観点で紙のメニューからQRコードを用いたデジタルメニューへの導入が進んでいる。



# ジョイント・ディグリー・プログラム

前号でお伝えしたように、新型コロナウイルスによるパンデミックは、ジョイント・ディグリー・プログラム(以下JDP)にも大きな影響を与えています。チリ大学では3月下旬より対面授業を中止としており、学生は例年とは違う形での学修を余儀なくされました。また、本年4月に本学で学修予定であった第一期生の渡航が急遽中止となり、未だに渡航の予定が立てられずにいます。本号では、パンデミック下で、仕事と学生生活の両立に奮闘する第四期生、カサーナ医師の様子をお届けします。

## 新型コロナウイルス下における経験と学生生活

カルラ・アレサンドラ・カサーナ・アバド医師 東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻

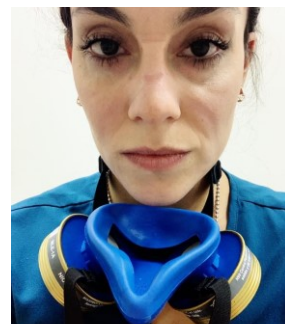
COVID-19によって引き起こされたパンデミックは、誰も予期しなかった形で世界中に影響を与えました。世界中の全ての人にとって非常に困難な時期ですが、特にこの緊急事態下において第一線で戦うこととなった医療従事者にとっては大きな挑戦となりました。

私は外科医ですが、外科の患者のみならずCOVID-19の患者の対応も行っています。私が働いている救急外来では、専門家を問わず全ての医師が、呼吸器系疾患の診断や治療方針に関する研修を受け、救急搬送される多くの患者を必死に対応しています。

また、JDPの講義はリモート形式に変更されましたが、分子生物学では研究室での実習があったため、受講するのが容易ではありませんでした。しかしながら、私の担当教官の方々は非常に協力的であり、ビデオ、オーディオ、書誌セミナーなどのツールを用いて受講できるように色々対策を講じてくださいました。様々な講義を受ける中で、世界中の多くの科学者がSARS-CoV-2に関する研究内容や結果を既に発表していることを知り、この疾患に対する研究のスピードに驚かされました。

私はCOVID-19によって愛する人を失い、世界中で何千人もの医療関係者を含めた多くの人々を失いました。感染者の増加を目の当たりにすることは、非常に辛いことであり、また同時に感染拡大を抑えるための外出制限の維持を重要視しない多くの人々の良識の欠如にはやるせない思いでした。我々のような医学や科学に従事するものにとって、たとえ一人であっても救えない命があることは非常に大きなことです。今回のような世界中の人々の健康に影響を及ぼす疾患に備えて研究と臨床の両面から取り組んでいくことは非常に重要なことであり、大学院で研究を続けるために出来る限り努力することはとても意義のあることだと思います。

今回のパンデミックで私たちは多くの苦難に直面しました。しかしながら、困難な状況であるからこそ、医学教育には研究と臨床の両面が必要であることが理解できましたし、健康ほど大切なものはないということに気付かされました。



救急外来勤務後の防護マスク跡

## JDP学生による医学部学生への特別講義



特別講義のポスター

8月19日、JDPの国際連携医学系専攻第四期生であるカサーナ医師が、本学の学生としてアンドレス・ベジョ大学ビーニャ・デル・マールキャンパス医学部学生にデジタルツールを使用した論文作成に関する特別講義を行いました。

新型コロナウイルスの影響もあり、講義はオンライン形式で行われましたが、130名程の学生が参加したことから関心の高さがうかがえました。

現役のJDP学生による特別講義ということで、本学のJDPを多くの医学部学生に知ってもらう良い機会ともなりました。

# PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。3月より新型コロナウイルスの影響を受けて全面的なPRENECの活動の休止が余儀なくされていましたが、7月にPRENECの各拠点や南米諸国に向けてのWebinar(オンライン講習会)が行われましたのでその様子をお伝えいたします。

## オンライン講習会開催



**WEBINAR  
CIRUGÍA DE  
COLON**

**TÍTULO:**  
"TRATAMIENTO DEL CÁNCER  
COLORRECTAL PRECOZ EN EL  
MARCO DE UN PROGRAMA DE  
CRIBADO"

**MODERADOR**

  
Dr. Francisco López Kostner  
Jefe Unidad de Coloproctología CLC.  
Director de PRENEC (Programa de Prevención de Hebrasas Colorrectal)

**EXPOSITORES**

  
Dr. Udo Kronberg  
Cirujano Coloproctólogo  
Unidad de Coloproctología  
Clínica Las Condes

  
Dr. Claudio Wainstein  
Cirujano Coloproctólogo  
Centro de Especialidades en Piso Pelviano CEPP  
Unidad de Coloproctología  
Clínica Las Condes

**TEMAS**

PRESENTE Y FUTURO DE LA RED  
PRENEC (Programa de Prevención de Hebrasas Colorrectal)  
NOVEDADES  
Dr. Francisco López Kostner

TRATAMIENTO ENDOSCÓPICO  
DEL CCR  
Dr. Udo Kronberg

CONSEJOS EN LA CIRUGÍA LAP  
DEL CCR PRECOZ  
Dr. Claudio Wainstein

PREGUNTAS Y DISCUSIÓN

Webex Meeting

Cisco  
webex

講習会のポスター

7月23日、CLC大腸肛門外科の医師らによって、「スクリーニングプログラムにおける早期大腸癌治療」に関するWebinarが開催されました。

PRENECの各拠点長やスタッフだけでなく、エクアドル、コロンビア、パラグアイ、ペルーからの医師も含め40名程の参加がありました。

内視鏡的・外科的治療における最新の知見や技術の発表に加え、PRENEC責任者であるロペス医師は、PRENECにおける今までの歩みと実績、本学の日本人医師らの協力について強調されていました。

また、新型コロナウイルスの影響を受けて、PRENECの待機患者が増加している問題についても取り上げられ、今後の対策について意見交換が行われました。現状では、PRENECの活動の再開は決まっておりませんが、今回のようなWebinarを通じた講習会や意見交換会は今後も開催される予定です。

## 編集後記

チリでは、新型コロナウイルスの影響を受けて延期となっていた憲法改正の投票が10月に予定されており、現在、国民の間で大きな関心事となっています。憲法改正の賛否を問う国民投票が迫り、賛成派と反対派の論争が始まっています。憲法改正案が通った場合は、さらに現行憲法の改正内容が議論され、約2年のプロセスを経て施行となります。国民投票の結果がどうであれ、チリの将来にプラスとなる結果になることを願っています。

今後もNewsletterを通してチリの様子をお伝えしてまいります。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点  
Latin American Collaborative Research Center  
Newsletter No.38 September 2020

[発行日] 2020年9月30日

[制作] Latin American Collaborative Research Center  
Tokyo Medical & Dental University  
Clínica Las Condes  
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile  
Tel: (56-2) 2610 3780  
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp